



## 平成 23 年度 画像保存セミナー

日本写真学会の画像保存研究会は、次世代に伝えるべき記録と価値ある写真画像、またその他の画像記録物の確実な保存を目指し、その知識の普及と技術の確立を目的としております。その主旨に則し、広く情報を発信する場として、1984年より画像保存セミナーを開催し、本年度で28回目を迎えます。

近年のデジタル化の進展に伴い、博物館や美術館等においても、アナログ画像に加えてデジタル画像が大量に作成されています。一方、これらのデータの活用と長期保存については課題あり、議論がなされてまいりましたが、特に長期保存については、ソリューションが得られたとは言いがたい状況にあると思われまます。このような状況下、本セミナーではデジタルデータのアーカイブセッションを企画し、ユーザーから見た課題に加えてデジタルデータの代表的な記録メディア（磁気材料/光ディスク/写真フィルム）について、材料から見た長期保存の現状について最新情報を得る機会を設けました（講演1～5）。

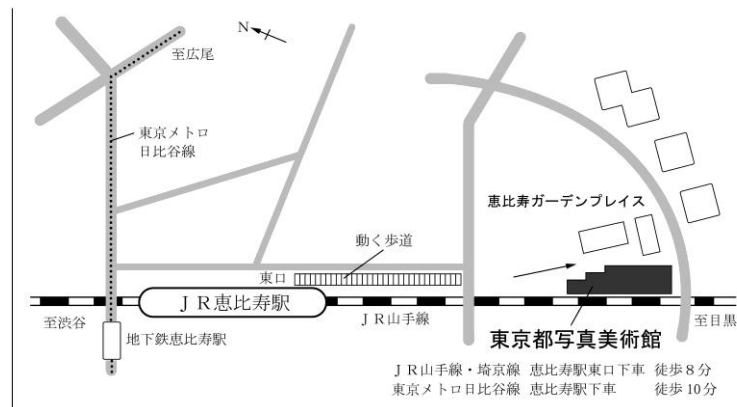
また、3月11日に発生した東日本大震災によって被害を受けた写真プリントやアルバムなどは、早い時期から被災地においてボランティア活動による収集や洗浄が行われてきました。これらの活動報告や専門家による修復の事例などを通して、災害時への備えについて議論できればと思います。

例年通りセミナー終了後、講演者と参加者が自由に情報や意見の交換をして頂けますよう、懇親会を設けております。画像保存に関心のある方、関連分野の多くの方々のご参加を頂きますよう、ご案内申し上げます。

日時：平成23年11月1日（火） 12：30受付開始  
12時50分～17時 講演 1～4

平成23年11月2日（水） 9：30受付開始  
9時55分～17時 講演 5～10

場所：東京都写真美術館ホール  
東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内



主催 社団法人 日本写真学会  
協賛 日本写真芸術学会  
一般社団法人 文化財保存修復学会  
財団法人 日本博物館協会  
東京都写真美術館

## セミナープログラム

**11月1日(火)**

12:30 受付開始

12:50 開会挨拶 画像保存部会長

13:00 講演 1. デジタルデータの恒久保存

|

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 小野定康

14:00 デジタルカメラはリアルタイムに撮影済み画像が確認出来る等の幾つかのフィルムカメラにない特長を持つが、デジタルデータのフィルムや印画紙並みの長期保存の問題は未解決である。本セミナーではこの問題に対する十分な実用性を持ち、かつ既存技術だけを用いる解決法について述べる。

14:00 講演 2. 文化財写真デジタル化の現状とデータ保存の問題

|

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 中村一郎

14:50 一般分野においてはほぼ移行が完了した写真業界のデジタル化に対し、文化財写真分野が取り組んできたデジタル化の現状と、この分野に必要な写真画像の超長期保存（1000年オーダー）に関する問題への取り組みを紹介する。

15:00 講演 3. コンピュータ用テープによるデジタルデータの長期保存

|

JEITA テープストレージ専門委員会 井上陽治

15:50 デジタルデータの歴史はデジタルコンピュータの歴史と言っても過言ではない。そのデジタルコンピュータと共に記録メディアとして共に進歩を続けてきた磁気テープは大容量で長期保存に適したメディアとして現在も広く使われている。

15:50 講演 4. フィルムを活用したデジタル長期保存に対する技術検証の報告

|

株式会社 IMAGICA 清野晶宏

16:40 スイスのバーゼル大 P. Fonaro 氏が 2010 年の JTS (Joint Technical Symposium) にて発表した、銀塩フィルムにデジタルデータを長期保存するマイグレーション不要のシステム "Monolith" について、イマジカが行った技術検証の結果を報告する。

**11月2日(水)**

9:30 受付開始 (9:30 までは建物内にお入りになれません)

9:50 開会挨拶 セミナー実行委員長

10:00 講演 5. 光ディスクアーカイブについて

|

太陽誘電(株) 開発研究所 砂川隆一

10:50 保存性・コスト・セキュリティ・環境性・規格化・長期再生環境の点で、光ディスクは最適なメディアである。使用する際は、ISO10995 で寿命が推定されているメディアを使用し、運用は ISO29121 や JIS Z6017 など公的規格に準拠して管理することが望ましく、それらについて解説する。

10:50 講演 6. 「フレスコ画法」の原理を応用したデジタル時代の新しい画像保存技術

|

株式会社 トクヤマ 谷地明幸

11:40 フレスコ画は古典的な画法であり、その画像保存性の高さは多くの歴史的作品が証明している。当社では、このフレスコ画の技法を現代の印刷技術と融合し、デジタル時代の新たな画像保存技術を開発した。そこで今回は、開発した新技術および画像保存メカニズムについて紹介する。

— 昼食休憩 (60分) —

- 12:40 講演 7. 図書館等の資料救済活動について  
 | 国立国会図書館資料保存課 川鍋道子・村上直子
- 13:30 東日本大震災では、図書館、博物館、文書館等も大きな被害を受けた。図書館の連携協力による資料救済について、国立国会図書館の取組みを報告する。特に、岩手県野田村立図書館等現地での救済活動について報告する。また、図書館等を支援する機関・団体の活動についても触れる。
- 13:30 講演 8. 東日本大震災—被災写真の救出と処置  
 | 紙本・写真修復 白岩洋子
- 14:20 東日本大震災によって被災した写真の多くは津波による被害であった。かつてない被害の規模に対し迅速な作業が求められる中、それらの救出活動はどのように遂行されたのか。写真の被害状況や処置に関して、幾つかの事例を交えながら報告を行う。
- 休憩 (15 分) —
- 14:35 講演 9. 被害を受けた歴史的写真 (古典技法) の修復について  
 | ヒューストン美術館写真コンサヴァター 小関俊旭
- 15:35 写真の災害からの救済処置は、有害要素の除去が第一の目的である。困難な状況の中で行われるこの活動は、実際の処置のみならず、処置者の安全の確保、可能な限りの写真技法の識別、優先順位の設定、リスク判断、迅速な処置方法、効率の追求、保存環境の充実を満たすことに重点を置く。適切な救済処置を受けた作品は、後に更なる修復が施される可能性も生まれる。ここに、歴史的写真を中心としたクリーニングや修復の実務について解説する。
- 15:45 講演 10. パネルディスカッション 東日本大震災における被災写真の救済活動と問題点  
 |
- 16:45 閉会挨拶 日本写真学会副会長

- \*各講演時間には質疑・応答の時間を含みます。なお、講演者および他の参加者の迷惑となるだけでなく、著作権の問題を含みますので主催者以外の写真・ビデオの撮影、録音はご遠慮願います。
- \*閉会后、講演者と参加者の自由な情報交換の場として懇親会 (下記参照) を行います。奮ってご参加ください。

## 参加申し込みについて

**セミナー参加費** (講演要旨集代を含む) : 2日間に渡る開催となりますが、参加費は例年と同額です。

日本写真学会および協賛学協会々員 …………… 6,000 円

非会員 …………… 8,000 円

学 生 …………… 2,000 円

(日本写真学会の賛助会員所属で非個人会員の方の取り扱いに関しては、賛助会費の口数に応じた人数枠に対して申し込み順に会員扱いとなります。枠を超えた分は非会員扱いとなります。会員枠が残っているかどうかにつきましては、ご面倒でも事務局にお問い合わせ下さい。)

**定 員** 180 名 (定員になり次第締切りますのでお早めにお申し込み下さい)

**懇親会** 講演者と参加者の自由な討論の場、および参加者相互の情報交換や交流を深める場として、セミナー終了後に下記のとおり懇親会を開きます。参加ご希望の方は郵便振替用紙の該当欄にその旨ご記入の上、会費をお送り下さい。

| 日程 | [1日目] 11月1日 (火)     | [2日目] 11月2日 (水)                   |
|----|---------------------|-----------------------------------|
| 時間 | 17時より               | 17時30分より                          |
| 場所 | 東京都写真美術館<br>2階 ラウンジ | 恵比寿ガーデンプレイスタワー<br>3階 カフェテリア・エスパシオ |
| 会費 | 1,000 円             | 3,000 円                           |

**申込締切** 平成 23 年 10 月 7 日 (金)

**申込方法** このプログラムに同封されている郵便振替用紙に、必要事項をご記入の上、セミナー参加費をお振り込み下さい。ご入金を確認した後、参加証をお送り致します。また、懇親会に参加ご希望の方は会費も合わせお振り込み下さい。

(郵便局備え付けの振替用紙でもお申し込み頂けます。その際は参加費区分、懇親会参加の有無を通信欄にお書き下さい)

日本写真学会ホームページ <http://www.spstj.org/> から参加申込ができます。トップページの「最新イベント情報」、あるいは左肩「イベント」よりお入り下さい。その場合でも、参加費のお支払は、上記のように事前に郵便振込みでお願い致します。

なお、一旦振り込まれた参加費の返却は致しかねますので、参加のご都合が悪くなった場合には代理の方の参加等でご対処をお願い申し上げます。

**送り先** 〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内  
(社) 日本写真学会 Tel. 03-3373-0724  
郵便振替口座番号 : 00130-6-72818 Fax. 03-3299-5887

### 日本写真学会にご入会下さい

この機会に、会員でない皆様には当学会に入会されることをおすすめします。  
セミナー当日、受付に入会申込書がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

年会費 : 正会員 8,500 円 学生 3,000 円

社団法人 日本写真学会 事務局  
〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5  
東京工芸大学内  
Tel. 03-3373-0724 Fax. 03-3299-5887  
URL <http://www.spstj.org>

このセミナーは、下記の組織で企画されました。

社団法人 日本写真学会

会 長 : 高田俊二 副会長 : 久下謙一 豊田 堅二

画像保存セミナー実行委員会

委員長 : 山口孝子 (東京都写真美術館)

委 員 : 上田耕一郎 (東京工芸大学)

大西弘幸 (セイコーエプソン)

河野純一 (元コカミノルタテクノロジーセンター)

杉本和俊 (コダック)

吉田 成 (東京工芸大学)

大関勝久 (富士フイルム)

大林賢太郎 (京都造形芸術大学)

小林裕幸 (千葉大学)

高橋則英 (日本大学)